



令和4年度入船山記念館企画展「日本海軍と技術交流—サンプル航空教育団・遣独技術者—」の開催について

入船山記念館では、呉市制120周年記念事業の一環として、次のとおり企画展を開催します。

1 企画展名

「日本海軍と技術交流—サンプル航空教育団・遣独技術者—」

2 概要

日本海軍は、海外からの技術導入を通じて、艦艇や航空機などの開発・製造を進めていました。今回の展示では、大正期、航空技術導入のためイギリスから派遣されたサンプル航空教育団と戦時期、艦艇・航空技術導入のためドイツへ派遣された海軍技術者について、入船山記念館所蔵資料等を基に紹介します。

3 場所

入船山記念館 歴史民俗資料館 展示室

4 会期

令和4年9月28日（水）～令和5年8月31日（木）

令和4年
9月

28

日(水)

令和5年
8月

31

日(木)

会場 歴史民俗資料館 展示室

日本海軍と 技術交流

センピル航空教育団・遺独技術者



入船山記念館
Irifuneyama Memorial Museum

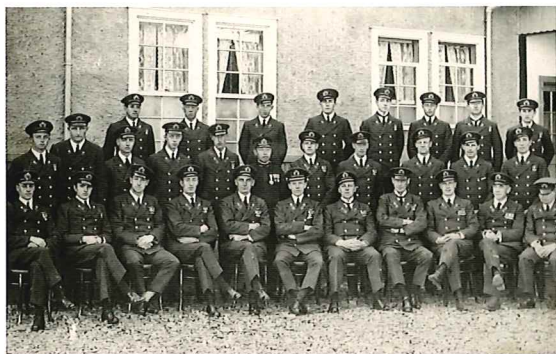
日本海軍は、海外からの技術導入を通じて、艦艇や航空機などの開発・製造を進めていました。

今回の展示では、大正期、航空技術導入のためイギリスから日本へ派遣されたセンプル航空教育団と戦時期、艦艇・航空技術導入のため日本からドイツへ派遣された海軍技術者について、入船山記念館所蔵資料等を基に紹介します。



センプル航空教育団

大正10(1921)年、第一次大戦後の航空機の急速な発展に対応するため、日本海軍の招聘^{しょうへい}によって来日しました。イギリス空軍のセンプル大佐を団長とする、総計30名の指導員で構成され、航空機の基礎飛行、偵察・射撃・雷撃・技術管理などあらゆる内容を指導。日本海軍航空の基礎を築きました。



センプル航空教育団 (大正10年)



帰国に際し、加藤友三郎首相(当時)より授与された勲章



センプルが使用した磁気コンパス

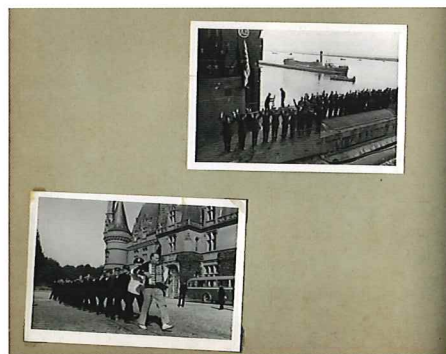
※センプル航空教育団の帰国から100年の記念の年に、センプル家から呉市へ遺品が寄贈され、当企画展で披露する運びとなりました。

遣独技術者

昭和期、ドイツとの関係を深めた日本海軍は、艦艇・航空機などの技術導入のため、多くの技術者を派遣しました。しかし、日米開戦以降、困難となった両国間の移動は、潜水艦によるものへと変わっていきます。



ドイツにて調査を行う日本海軍技術者 (昭和16年)



昭和18(1943)年にドイツとの往復を果たした伊号第8潜水艦のアルバム

